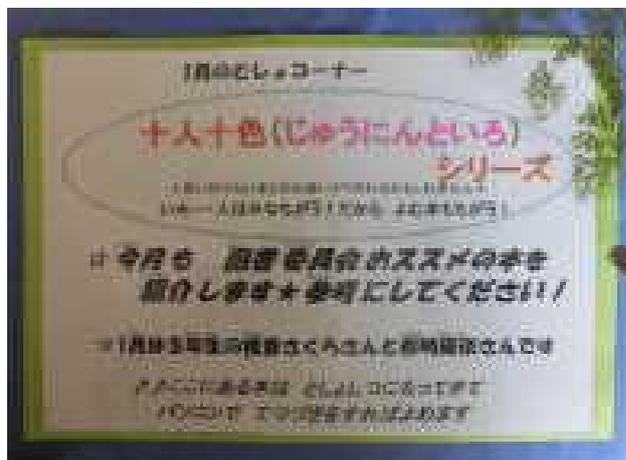




1月の図書コーナー



図書コーナーの「十人十色シリーズ」。1月の「図書委員のおススメ本」の担当者は、5年生の板口さくらさんと岩口優口さんです。

学年	図書委員のおススメ本
1年生	鳥のなき声ずかん
2年生	うちの近所のいきものたち
3年生	ペンギンの不思議
4年生	グレッグのダメ日記
5年生	負けないパティシエガール
6年生	ツバメの謎

お知らせ

希望者を対象にした「第2回スタンプラリー」が企画されています。



スタンプラリーの完走者 96名

2年1組は18名全員が完走しました！

「北小読書週間」の記念イベントとして2学期末まで実施した「ひと言感想スタンプラリー」で、スタンプを5個貯めて完走し、プレゼントのクジを引いた人が96名になりました。昨年度の「詩の暗唱スタンプラリー」よりも、完走者が40名も増えました。

今回のスタンプラリーのプレゼントの中には、「買って欲しい本のリクエスト券」も入っていましたが、4名の完走者がこれを引き当てました。宮沢先生がさっそく発注してくれましたので、1月中には入荷する予定です。楽しみに待っていてください。

また、12月12日(月)から16日(金)までの5日間、「冬休み貸し出し(5冊まで)」が行われましたが、宮沢先生の話によると、「どの学年の児童も、たくさん借りてくれたので、図書室の本棚は“空き空き”ということでした。

冬休み中も、読書を楽しんでくれた人が多かったことを、たいへん嬉しく思います。

学級	完走者
1の1	21名
2の1	18名
2の2	8名
3の1	19名
4の1	14名
5の1	7名
6の1	8名
つくし	1名
合計	96名

【学校評価の保護者意見・要望欄から】

- ◇ 読書のスタンプラリー。とても、子どもが意欲が出て、よかったですと思いました。
- ◇ 本の紹介や個々に合わせたアドバイス等、図書室の宮沢先生にも、たいへんお世話になっております。おかげさまで、読書＝楽しいという気持ちになったように思います。ありがとうございます。

小学校学習指導要領は平成32年度から本格実施になります

- ◆ 日本の児童生徒の“喫緊の課題”である<読解力の向上>に向けて、国語等で「語彙を増やす指導」や「読書活動」を充実させる。
- ◆ 教員が児童生徒に一方的に知識を伝授する授業から脱却し、児童生徒が調べたり考えたりしたことを、発表や討論を通して主体的に学ぶ「アクティブ・ラーニング」を全教科に導入する。
- ◆ 現行の「5・6年英語活動」を、教科書を使う正式な教科「5・6年英語（週2時間）」にし、新たに「3・4年英語活動（週1時間）」を行う。
ただし、児童がスムーズに対応できるように、平成30・31年度を移行期間（＝平成30年度から先行実施）にする。
- ◆ プログラミング的思考を育むための「プログラミング教育」を必修化する。
→ 小学校では、身近な生活でコンピュータが活用されていることや問題の解決には必要な手順があることに気付かせることが中心で、コーディング（プログラミング言語を用いた記述方法）の指導は行わない。

読解力の向上が喫緊の課題

平成28年12月21日に、中央教育審議会が、平成32年度から順次実施（小学校32年度、中学校33年度、高校34年度）される次期学習指導要領の「基本方針」を文部科学大臣に答申しました。

これを受けて、文部科学省は現行の学習指導要領の改定し、小中学校の次期学習指導要領は今年度中に告示される予定です。

今回の答申で中央教育審議会が<喫緊の課題>として位置付けているのが、国際学習到達度調査（PIISA）で、前回の4位から8位に順位が下がり、平均点も低下してしまった日本の子どもたちの「読解力の向上」で、次期学習指導要領の中で、「語彙を増やす指導」と「読書活動」が充実されるように答申しています。

日本の子どもたちの読解力の低下は、ここ数年様々なところで論じられてきましたが、全国学力・学習状況調査（いわゆる学力テスト）を実施している文部科学省は、その原因を、「メールなどSNSによる短文や単語でのやり取りが増えてきている一方で、本や雑誌や新聞などで長文に接する機会が減ってきていることが大きく影響している」と分析しています。

全国学力・学習状況調査の質問紙調査では、「読書時間の長い子ども、新聞を読んでいる子どもほど、この全国学力調査の成績が良い」という結果も出ています。

長い文章から要旨や主題、必要な情報を読み取り、作者の考えや自分の考えをまとめる力（読解力）は、すべての学習の基盤になっています。

また、論理的な文章（説明文、新聞）を読みこなすことができなければ知識の幅も広がらず、知識の量は時として、子ども自身の判断をも左右するので、読解力と判断力は密接な関係にあるといえます。

情緒的な文章（物語文、小説）であっても、じっくり活字を追いながら想像することができなければ、道徳的な葛藤場面に触れたり、ストーリーや伏線の楽しさを味わったりすることはできません。本を読んで読書感想文を書くのは夏休みの宿題くらいですが、感想文とまではいなくても、活字を追いながら考えたり想像したりすることを、絶えず頭の中で繰り返している読書は、思考力や想像力を確実に高めていきます。

年度内に次期学習指導要領が告示されると、文部科学省から学校に、「読解力の向上」に関する具体的な方法も示されると思いますが、平成32年度からの本格実施に備えて、小学校でも、「語彙を増やす指導」と「読書活動の充実」を通じた「読解力の向上」について、前倒しの研究や準備をしていくことになると思います。

そして、読解力を向上させるために、まず取り組まなければならないことは、子どもたちが長い文章や多様な文章（説明文、物語文、新聞、説明書など）に触れる機会をできるだけ多く確保し、活字に親しめる環境づくりを工夫していくことであり、このことは、学校と家庭の両方で取り組んでいく必要があると考えています。

<喫緊の課題>というのは、「差し迫って対応しなければならない優先順位1番の課題」ということですから、学校と家庭がこれまで以上に連携して、「読解力の向上」という課題を共有し、その解決に向けて努力していくことが求められています。



